

# 当面の医療保険部会の主要な事項に 関するこれまでの主な指摘等

平成27年10月21日  
厚生労働省

## 附 則

第2条第1項 政府は、この法律の公布後において、持続可能な医療保険制度を構築する観点から、医療に要する費用の適正化、医療保険の保険給付の範囲及び加入者等の負担能力に応じた医療に要する費用の負担の在り方等について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

# 経済財政運営と改革の基本方針2015「経済・財政再生計画」 (平成27年6月30日閣議決定)より

## 【医療費適正化に向けた取組み】

番号	検討項目	骨太2015「経済・財政再生計画」における記載	過去の医療保険部会における意見等
1	外来医療費について、データに基づき地域差を分析し、重複受診・重複投与・重複検査等の適正化を行いつつ地域差を是正 (参考資料3 P1～、※骨太⑤)	・外来医療費についても、データに基づき地域差を分析し、重複受診・重複投与・重複検査等の適正化を行いつつ、地域差の是正を行う。	-
2	地域医療構想と統合的な形で、都道府県ごとに医療費の水準や医療の提供に関する目標を設定する医療費適正化計画を策定。国が27年度中に標準的な算定方式を示す。 (都道府県別の医療費の差の半減を目指す) (参考資料3 P1～、※骨太⑥)	・地域医療構想と統合的な形で、都道府県ごとに医療費の水準や医療の提供に関する目標を設定する医療費適正化計画を策定する。平成27年度中に、国において目標設定のための標準的な算定方式を示す。これらの取組を通じて、都道府県別の一人当たり医療費の差を半減させることを目指す。	-
3	都道府県の行う病床再編や地域差是正の努力を支援するための取組 ・医療費適正化計画の進捗状況等を踏まえた高確法第14条の診療報酬の特例の活用の在り方の検討 ・都道府県の体制・権限の整備の検討等  (参考資料3 P7～、※骨太⑩(ii)、(iv))	・改革に取り組む都道府県を重点的に支援する観点からの地域医療介護総合確保基金の平成27年度からのメリハリある配分や、医療費適正化計画の進捗状況等を踏まえた高齢者医療確保法第14条の診療報酬の特例の活用の在り方の検討、機能に応じた病床の点数・算定要件上の適切な評価、収益状況を踏まえた適切な評価など平成28年度診療報酬改定及び平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定における対応、都道府県の体制・権限の整備の検討等を通じて、都道府県の行う病床再編や地域差是正の努力を支援する。これらの施策について可能なものから速やかに実施する。	医療保険部会における主な議論(平成25年5月29日) (地域ごとの診療報酬) ・診療報酬については、一物一価、全国统一しないと国民の納得は得られない。 ・地域ごとの診療報酬については、ドイツでも全国统一に苦労した状況があるので、全国统一で単価を決めた上で、地域の特性は要件の緩和とか加算等で対応するのがよい。

※骨太●の番号は、経済財政諮問会議の下に設置された経済・財政一体改革推進委員会において示された検討項目の番号

# 【医療に要する費用の負担の在り方】

番号	検討項目	骨太2015「経済・財政再生計画」における記載	過去の医療保険部会における意見等
4	医療・介護を通じた居住に係る費用負担の公平化の検討 <b>(参考資料3 P9～、※骨太③)</b>	・慢性期の医療・介護ニーズに対応するサービス提供体制について、医療の内容に応じた制度上の見直しを速やかに検討するとともに、医療・介護を通じた居住に係る費用負担の公平化について検討を行う。	議論の整理（平成23年12月6日） （入院時の食費・居住費） ・入院時の食事・居住費については、①入院時の食事管理は治療の一環であり、通常の食事とは区別して考えるべき、②居住費の負担が入院前の住居との二重の負担にならないようにすべき、等の理由から、見直しに慎重な意見が大勢を占めた。なお、一部の委員からは、事業仕分けの考え方（注）に基づき見直しを進めるべきとの意見もあった。 （注）事業仕分け時の主な指摘事項 ・一般病床に入院する方、療養病床に入院する65歳未満の方にも、調理費や居住費を負担していただくべきではないか。
5	かかりつけ医の普及の観点からの診療報酬上の対応や外来時の定額負担について検討 <b>(参考資料3 P14～、※骨太⑨)</b>	・かかりつけ医の普及の観点からの診療報酬上の対応や外来時の定額負担について検討する。	議論の整理（平成23年12月6日） ※高額療養費改善の財源として、外来受診時に100円（低所得者は50円）の受診時定額負担について議論。 ・受診時定額負担については、①患者だけが負担するのではなく、健康な人を含めて保険料や公費で広く負担すべき、②受診抑制により病状が悪化するおそれがある等の理由から、導入に反対の意見があった。 ・一方で、①医療費は保険料・公費・自己負担の組み合わせで確保する必要があるが、保険財政の現状を考えると、高額療養費の改善を保険料の引き上げで賄うのは困難、②財源を保険料に求める場合、負担の大部分が若年者に転嫁される等の理由から、受診時定額負担も一つの選択肢との意見もあった。
6	世代間・世代内での負担の公平を図り、負担能力に応じた負担を求める観点からの検討 ・高額療養費制度の在り方 <b>(参考資料3 P25～、※骨太⑭(i))</b>	・社会保障制度の持続可能性を中長期的に高めるとともに、世代間・世代内での負担の公平を図り、負担能力に応じた負担を求める観点から、医療保険における高額療養費制度や後期高齢者の窓口負担の在り方について検討する（略）。	医療保険部会における主な意見（平成26年8月8日） ・プログラム法に掲げられた医療費の適正化だけでは不十分であり、高齢者の患者負担割合引上げ、高額療養費の外来特例の見直し等についても、議論すべきではないか。 ・高齢者には、所得が高い者と低い者の両方の立場がある、ということ踏まえた議論が必要。 ・年齢にかかわらず、所得の高い人はそれなりに負担するべきではないか。 ・高齢者医療に係る費用負担については、増加する医療費を見据え、高齢世代、現役世代、事業主、国、地方自治体など関係者でベストミックスを図るべきではないか。
7	世代間・世代内での負担の公平を図り、負担能力に応じた負担を求める観点からの検討 ・医療保険における後期高齢者の窓口負担の在り方 <b>(参考資料3 P25～、※骨太⑭(ii))</b>	・世代間・世代内での負担の公平を図り、負担能力に応じた負担を求める観点から、医療保険における高額療養費制度や後期高齢者の窓口負担の在り方について検討する（略）。	医療保険部会における主な意見（平成26年8月8日） ・プログラム法に掲げられた医療費の適正化だけでは不十分であり、高齢者の患者負担割合引上げ、高額療養費の外来特例の見直し等についても、議論すべきではないか。 ・高齢者には、所得が高い者と低い者の両方の立場がある、ということ踏まえた議論が必要。 ・年齢にかかわらず、所得の高い人はそれなりに負担するべきではないか。 ・高齢者医療に係る費用負担については、増加する医療費を見据え、高齢世代、現役世代、事業主、国、地方自治体など関係者でベストミックスを図るべきではないか。

# 【保険給付の範囲・内容等】

番号	検討項目	骨太2015「経済・財政再生計画」における記載	過去の医療保険部会における意見等
8	公的保険給付の範囲や内容について適正化し、保険料負担の上昇等を抑制するための検討 ・生活習慣病治療薬等について、費用面も含めた処方の方等について <b>(参考資料3 P36～、※骨太②(iii))</b>	・医療の高度化への対応として、医薬品や医療機器等の保険適用に際して費用対効果を考慮することについて、平成28年度診療報酬改定において試行的に導入した上で、速やかに本格的な導入をすることを旨とする。生活習慣病治療薬等について、費用面も含めた処方の方等について検討する。 ・市販品類似薬に係る保険給付について、公的保険の役割、セルフメディケーション推進、患者や医療現場への影響等を考慮しつつ、見直しを検討する。	-
9	公的保険給付の範囲や内容について適正化し、保険料負担の上昇等を抑制するための検討 ・市販類似薬に係る保険給付について見直しを検討 <b>(参考資料3 P36～、※骨太②(iv))</b>	・医療の高度化への対応として、医薬品や医療機器等の保険適用に際して費用対効果を考慮することについて、平成28年度診療報酬改定において試行的に導入した上で、速やかに本格的な導入をすることを旨とする。生活習慣病治療薬等について、費用面も含めた処方の方等について検討する。 ・市販品類似薬に係る保険給付について、公的保険の役割、セルフメディケーション推進、患者や医療現場への影響等を考慮しつつ、見直しを検討する。	議論の整理（平成23年12月6日） （医薬品の患者負担） ・市販医薬品の価格水準を考慮して医薬品の患者負担を見直すとの考え方については、診療報酬体系が複雑化するおそれがあるといった意見や過度な患者負担を求めるべきでないといった意見があった。また、市販医薬品については、消費者が自ら選択して服薬するものであり、医師の処方による医療用医薬品とは性質が異なることや、使用方法が異なるものの負担を比較することは困難であるという意見もあった。
10	後発医薬品の価格等を踏まえた特許の切れた先発医薬品の保険制度による評価の仕組みや在り方等の検討 <b>(参考資料3 P40～、※骨太③)</b>	・国民負担を軽減する観点から、後発医薬品の価格算定ルールの見直しを検討するとともに、後発医薬品の価格等を踏まえた特許の切れた先発医薬品の保険制度による評価の仕組みや在り方等について検討する。	議論の整理（平成23年12月6日） （後発医薬品の使用促進） ・行政刷新会議の「政策提言型仕分け」において出された、先発品と後発品の差額の一部を患者負担とするとの考え方については、過度な患者負担を求めるべきでないといった意見があった。

# (参考) 「経済・財政再生計画」に掲げられた課題(保険局関係)について①

検討項目	分類	検討の場
②慢性期の医療・介護ニーズに対応するサービス提供体制に係る制度上の見直しの検討	D	その他
③医療・介護を通じた居住に係る費用負担の公平化の検討	D	医療保険部会
⑤外来医療費について、データに基づき地域差を分析し、重複受診・重複投与・重複検査等の適正化を行いつつ地域差を是正	B・D	医療保険部会
⑥地域医療構想と整合的な形で、都道府県ごとに医療費の水準や医療の提供に関する目標を設定する医療費適正化計画を策定。国が27年度中に標準的な算定方式を示す。(都道府県別の医療費の差の半減を目指す)	B	医療保険部会
⑨かかりつけ医の普及の観点からの診療報酬上の対応や外来時の定額負担について検討	C・D	中医協 医療保険部会
⑪都道府県の行う病床再編や地域差是正の努力を支援するための取組 (ii)医療費適正化計画の進捗状況等を踏まえた高確法第14条の診療報酬の特例の活用の在り方の検討 (iii)機能に応じた病床の点数・算定要件上の適切な評価、収益状況を踏まえた適切な評価など平成28年度診療報酬改定及び平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定における対応 (iv)都道府県の体制・権限の整備の検討等	C (iii・iv) D (ii)	医療保険部会 中医協
⑫全ての国民が自ら生活習慣病を中心とした疾病の予防、重症化予防、介護予防、後発医薬品の使用や適切な受療行動をとること等を目指し、特定健診等の受診率向上に取り組みつつ、個人や保険者の取組を促すインセンティブのある仕組みを構築	A	その他
⑬国保において、保険者努力支援制度の趣旨を現行制度に前倒しで反映	C	その他
⑭保険者における医療費適正化に向けた取組に対する一層のインセンティブ強化に係る制度設計 (i)2018年度までに保険者努力支援制度のメリハリの効いた運用方法の確立 (ii)国保保険料に対する医療費の地域差の一層の反映 (iii)後期高齢者支援金の加算・減算制度の運用面での強化 (iv)医療保険の審査支払機関の事務費・業務の在り方等	C	その他
⑮ヘルスケアポイント付与や保険料への支援になる仕組み等の個人に対するインセンティブ付与による健康づくりや適切な受診行動等の更なる促進	B	その他
⑯高齢者のフレイル対策の推進	C	その他
⑳民間事業者も活用した保険者によるデータヘルスの取組について、健康経営の取組との連携も図りつつ、好事例を強力に全国展開	A	その他

※分類について

A：実施段階にある項目 B：平成27年度中に行う事項が含まれる項目 C：平成28年度予算関連の項目（見込みを含む） D：検討時期・実施時期を今後検討し、明らかにしていく項目<sup>5</sup>



# (参考) 「経済・財政再生計画」に掲げられた課題(保険局関係)について②

検討項目	分類	検討の場
②④世代間・世代内での負担の公平を図り、負担能力に応じた負担を求める観点からの検討 (i)高額療養費制度の在り方 (ii)医療保険における後期高齢者の窓口負担の在り方	D	医療保険部会
②⑥医療保険、介護保険ともに、マイナンバーの活用等により、金融資産等の保有状況を考慮に入れた負担を求める仕組みについて検討	D	その他
②⑦公的保険給付の範囲や内容について適正化し、保険料負担の上昇等を抑制するための検討 (ii)医薬品や医療機器等の保険適用に際して費用対効果を考慮することについて平成28年度診療報酬改定において試行的に導入した上で、速やかに本格的な導入を目指す (iii)生活習慣病治療薬等について、費用面も含めた処方等の在り方等の検討 (iv)市販類似薬に係る保険給付について見直しを検討 (v)不適切な給付の防止の在り方について検討等	C (ii・iv) D (iii・v)	中医協 医療保険部会
②⑧後発医薬品に係る数量シェアの目標達成に向けて安定供給、信頼性の向上、情報提供の充実、診療報酬上の措置など必要な追加的措置を講じる。	C	中医協
②⑨後発医薬品の価格算定ルールの見直しを検討	C	中医協
③⑩後発医薬品の価格等を踏まえた特許の切れた先発医薬品の保険制度による評価の仕組みや在り方等の検討	C	中医協 医療保険部会
③⑪基礎的な医薬品の安定供給、創薬に係るイノベーションの推進、真に有効な新薬の適正な評価等を通じた医薬品産業の国際競争力強化に向けた必要な措置の検討	C	中医協
③⑫市場実勢価格を踏まえた薬価の適正化	C	中医協
③⑬薬価改定の在り方について、2018年度までの改定実績も踏まえ、その頻度を含め検討	D	中医協
③⑭適切な市場価格の形成に向けた医薬品の流通改善	C・D	中医協
③⑮医療機器の流通改善及び保険償還価格の適正化を検討	C・D	中医協
③⑯平成28年度診療報酬改定において、保険薬局の収益状況を踏まえつつ、医薬分業の下での調剤技術料・薬学管理料の妥当性、保険薬局の果たしている役割について検証し、調剤報酬について、服薬管理や在宅医療等への貢献度による評価や適正化、患者本意の医薬分業の実現に向けた見直し	C	中医協
③⑰診療報酬改定における前回改定の結果・保険医療費への影響の検証の実施とその結果の反映及び改定水準や内容に係る国民への分かりやすい形での説明	C・D	中医協

※分類について  
A：実施段階にある項目 B：平成27年度中に行う事項が含まれる項目 C：平成28年度予算関連の項目（見込みを含む） D：検討時期・実施時期を今後検討し、明らかにしていく項目<sup>6</sup>